

野村恒彦

・ 研究内容

19 世紀英国数学史、探偵小説

紹介する本

1. Belinda Jack, *Reading*, Oxford University Press, Very Short Introduction 600, 2019

本を読む行為を一言で言えば「読書」なのだが、その実態は多岐にわたっている。本書も題名は「読書」となっているが、内容については音読、黙読といった技術を含む古代から近代・現代までの読書法の歴史、印刷技術等の書籍製作の歴史、読書の影響、焚書・検閲、繰返しの読書といった項目に分類構成されている。特に近代の読書の章で、ゲーテの『若きウェルテルの悩み』について書かれている箇所が非常に興味深かった。それぞれ項目についての歴史的背景や内容が詳述されており、読書という行為に興味ある人にぜひともお薦めしたい。